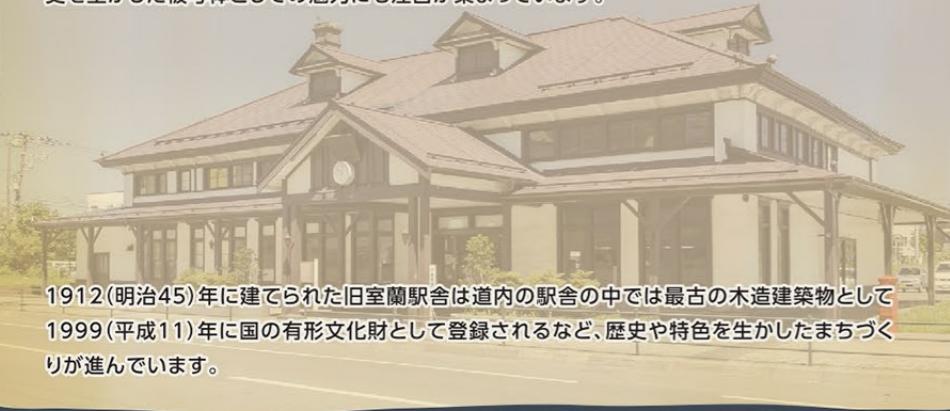


## 室蘭の炭鉄港ストーリー

1872(明治5)年に室蘭港が開港すると翌年1873(明治6)年に函館-森~(海路)~室蘭-札幌を結ぶ札幌本道が完成します。以来1892(明治25)年の鉄道開設、1894(明治27)年には特別輸出港にも指定され19世紀後半に天然の良港と空知地方からの石炭輸送による石炭積み出し港として栄えます。その後1907(明治40)年日本製鋼所、1909(明治42)年北海道炭鉱汽船輪西製鉄場(現在の日本製鉄室蘭製鉄所)が設立、20世紀前半に製鉄・製鋼業のまち室蘭として発展していきます。

道内一の石炭積出港として、最盛期には本州向け道内炭のおよそ6割が移出された室蘭港も石油へのエネルギー転換により1976(昭和51)年、石炭積み出し港としての役割を終えましたが、その後も臨海工業港及び背後地の流通拠点港として北海道工業地域の発展を支えてきました。「港まち」・「鉄のまち」と言われる室蘭は鉄道や石炭により地域経済が発展し、北海道さらには日本の近代化に貢献してきたのです。

製鉄・製鋼業をはじめ湾内に大きな工場が林立している景色と、少し視点を変えるだけで豊かな大自然に触れる室蘭。最近は「工場夜景」やドラマ・映画のロケ地など、独特的地形と歴史を生かした被写体としての魅力にも注目が集まっています。



1912(明治45)年に建てられた旧室蘭駅舎は道内の駅舎の中では最古の木造建築物として1999(平成11)年に国の有形文化財として登録されるなど、歴史や特色を生かしたまちづくりが進んでいます。

## 大自然とともにづくりのまち

室蘭は1600年ころ松前藩がアイヌの人たちと交易をするため、絵柄場所(えともばしょ)を開き、運上屋を置いたのが始まりとされ、以来、札幌本道の整備や鉄道敷設、定期船の就航などにより本州と北海道を結ぶ海陸交通の要衝として発展してきました。現在では港を囲むように工場群が立地しており、北海道を代表する工業・港湾都市となっています。夜の工場群の景観は「工場夜景」として注目を集めており、白鳥大橋のライトアップとともにまるで宝石箱の中にいるような夜景を演出します。一方で、太平洋に面する外海側は、100メートル前後の断崖絶壁が続き、「北海道の自然100選」で第1位に選ばれた「地球岬」などの雄大な自然あふれる景勝地が数多くあり、外海では、イルカ・クジラウォッチングも楽しめます。

**[札幌から]**  
車：約2時間(道央自動車道経由)  
JR：約2時間20分(千歳線→室蘭本線)  
バス：約2時間40分(高速直行バス)

**[新千歳空港から]**  
車：約1時間20分(道央自動車道経由)  
JR：約1時間40分(千歳線→室蘭本線)

**[旭川空港から]**  
車：約3時間40分(道央自動車道経由)  
JR：約4時間50分(空港リムジンバス→函館本線→千歳線→室蘭本線)

室蘭市

制作：炭鉄港推進協議会 (事務局:空知総合振興局地域創生部地域政策課)

〒068-8558 北海道岩見沢市8条西5丁目  
電話番号：0126-20-0146 FAX番号：0126-25-8144



炭鉄港 北の産業革命の物語  
<http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/tantetsuko.htm>

歴史をめぐる旅物語

# 炭鉄港 室蘭



令和元年度文化資源活用事業費補助金  
(観光拠点整備事業)

パンフレット背景色は12市町それぞれの炭鉄港イメージカラーです

【室蘭：鉄】

## 日本遺産とは



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

「日本遺産(Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

【本邦国策を北海道に觀よ!～北の産業革命「炭鉄港」～】は令和元年度日本遺産に認定されました。

日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>

## 北海道の近代化を支えた三都を結ぶ物語

北海道の近代化は、1872(明治5)年、石造埠頭の建設が開始された小樽からスタートしました。その後、小樽が北海道のゲートウェイとして一段の飛躍を遂げる契機となったのは、1879(明治12)年、北海道初の近代炭鉱である官営幌内炭鉱(現在の三笠市幌内)の開鉱でした。

その石炭を運ぶための幌内鉄道は、北海道初の鉄道として、まずは1880(明治13)年に手宮(小樽)～札幌間が部分開通、1882(明治15)年には幌内まで全通しました。幌内鉄道は、小樽港への石炭運搬だけではなく、北海道内陸部へ入植する人や収穫した農産物の輸送に活躍するとともに、人や物資の輸送円滑化を通じて道都札幌の発展も支えました。

1889(明治22)年、炭鉱と鉄道は元薩摩藩士の堀基が設立した北海道炭礦鉄道会社(北炭)に払い下げられ、同社によって空知炭鉱(歌志内)と夕張炭鉱(夕張)の開発が進められました。それに伴い、1892(明治25)年に室蘭まで鉄道が延長され、岩見沢が道央圏を東西南北に結ぶ鉄道の交点として、室蘭

が石炭積出港として発展する礎となりました。

1906(明治39)年には、鉄道が国有化されました。北炭は、その売却資金をもとに、英國企業2社との合併により、室蘭に日本製鋼所を設立。1909(明治42)年には製鉄へと進出し(輪西製鉄場:現在の日本製鉄室蘭製鉄所)、室蘭は鉄の街として不動の地位を確立しました。

一方、鉄道国有化によって北炭の独占輸送体制が崩れ、財閥各社は一斉に空知へ進出し、これを足がかりにして日露戦争で獲得した樺太へと勢力を伸ばしました。このことが小樽港の一層の発展を促して、1914(大正3)年の小樽運河の開削へつながっていきます。

空知・小樽・室蘭の三都を結ぶ鉄道は、全道の鉄道ネットワークの機軸となり、三都の基幹産業である石炭・港湾・鉄鋼は、北海道の産業化を先導してきたのです。



## 炭鉄港 グルメ

### ～室蘭やきとり～

豚肉とタマネギを炭火で焼き、洋からしで食べる室蘭のご当地グルメ。昭和初期、輪西地区の屋台が発祥で、製鉄所で働く人々に喜ばれました。「やきとり」といながら豚肉を使ったのは、日中戦争以降、食糧増産や軍需品利用などから養豚が奨励されていたからだとか。



#### 室蘭市旧室蘭駅舎

1912年に建設。明治の洋風建築の面影を残す屋根や白壁づくりの外観、外回りは入母屋風で「がんぎ」と呼ばれるアーケード様式になっています。

#### 瑞泉閣 (日本製鋼所)

1911年に、大正天皇が皇太子時代に、日本製鋼所室蘭製作所を視察の際、宿泊所として建設されました。現在も同製作所の来賓の迎賓館として使用されています。(見学不可)

#### 旧火力発電所 (日本製鋼所)

1909年に建設された煉瓦造りの石炭火力発電施設。鉄鋼生産に必要な電力を自社発電するため、英国から輸入した発電機などが設置されていました。(見学不可)

## 炭鉄港 構成文化財

#### 旧北炭室蘭海員俱楽部

1926年に建築された北炭の海員俱楽部。山荘風の意匠が特徴。北炭の専務取締役であった井上角五郎氏の別荘があった場所に建設されました。

#### 旧三菱合資会社室蘭出張所

1915年に建築。戦時中は日本石炭(石炭各社を統合した統制販売会社)の事務所として使用。現在は市民出資による保存団体が所有しています。

恵比寿・大黒天像  
1909年に室蘭で初めて製造された鉄を用いて制作されました。高炉の火入れを記念して関係者に贈呈されたものです。

工場景観と企業城下町のまちなみ  
港の周囲の工場群は、夜景観賞の人気スポットとなっています。また製鉄所付近には、最盛期の面影を残す商店街や施設などが残っています。

#### 日本製鋼所室蘭製作所製造複葉機エンジン「室0号」

1918年に日本製鋼所が製作した日本最初の航空機エンジン。陸軍からの正式受注を受け、わが国初の制式航空発動機として完成しました。(見学は要問い合わせ)



## 室蘭市民俗資料館 (とんてん館)

大倉加奈さん  
炭鉄が好きすぎて北海道赤平市に移住。NPO職員、フリーデザイナーとして活動中。

